

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成21年3月発行 NO:18号



サキシマツツジ

「ツアーガイド講習会」を開催

2月26日(木)、西表島大原の竹富町離島振興総合センターにおいて、沖縄森林管理署及び当センターが主催する「ガイド講習会」を昼の部(15~17時)と夜の部(18~20時)の2回開催しました。

それぞれの講習会では、沖縄森林管理署長の主催者挨拶、沖縄森林管理署流域管理調整官の「自然休養林」、環境省西表自然保護管事務所岡村自然専門員の「イリオモテヤマネコの現状」、竹富町教育委員会高原主事の「文化財保護法」、西表島エコツーリズム協会伊谷事務局長の「ツアーガイドの実践事例」についての講義、最後に事務局から「木道を利用する際の留意事項等」について説明しました。

昨年、マングローブ林及びサガリバナ林内に設置した木道()は、ガイドの皆さんが安全に留意しながら木道周辺でのイリオモテヤマネコ等のモニタリングを行って頂くことにしています。

今回の講習会の受講者は、昼の部22名、夜の部11名でした。受講者には後日、沖縄森林管理署長から木道利用許可証を交付することになっています。



沖縄森林管理署長の主催者挨拶



環境省による説明

(各講師からの説明)

沖縄森林管理署からは、自然休養林の説明と「賠償責任保険」への加入の要請、環境省からは、西表島を代表するイリオモテヤマネコが減少傾向にあり人為的な行為が少なからず影響していること、竹富町教育委員会からは、天然保護区内での禁止行為(現状変更行為)、また、セマルハコガメやカンムリワシなどの天然記念物が死亡や衰弱していた場合の対応について(西表野生生物保護センターに連絡、竹富町教育委員会に「天然記念物滅失届」を提出)、西表島エコツーリズム協会からは、リピーターを増やすためのプログラムの重要性についての説明が行われました。

木道

西表島東部の西表亜熱帯樹木展示林からサガリバナ林、マングローブ林を抜け仲間川の支流にしふなづきがわ北船付川に至るルートに、西表島の森林環境教育の拠点施設として木道(延長150m)を整備。



竹富町役場による説明



エコツーリズム協会による説明

西表森林生態系保護地域設定委員会が開催

1月22日（木）石垣市健康福祉センターにおいて平成3年に西表島の国有林内に設定した西表島森林生態系保護地域（約1万2千ha）の区域見直しについて検討するため第一回西表島森林生態系保護地域設定委員会が開催されました。九州森林管理局長の挨拶ではじまり、琉球大学熱帯生物圏研究センター馬場繁幸教授を座長に迎えて議事に入り、事務局である九州森林管理局計画課長等から今回の見直しに関する説明が行われ、出席された9名の各委員から活発な意見が出されました。

23日及び24日は、西表島に移動し現地調査が行われました。2日間とも雨中での現地調査ではありましたが、各流域の主要ポイントでは熱心な議論が行われました。



検討委員会



現地調査

「自然環境教育推進のための連絡会」を開催

1月29日（木）西表島における自然環境教育推進のための連絡会を竹富町離島振興総合センターにおいて開催しました。この連絡会は西表島内の小中学校と支援可能な機関・団体が参集し、自然環境教育に関する情報や意見の交換、連絡調整を行い、自然環境教育を推進して行くことを目的に開催しています。

会議では、平成19年2月に当センターが作成した「西表島での自然環境教育カリキュラム」の活用、改正などについて積極的な意見交換が行われました。

また、このカリキュラムを活用して、上原小学校が作成した「平成20年度環境教育マトリックス」について、吉濱校長先生から環境教育の基本的な考え方などを踏まえ詳しく説明して頂くとともに、白浜小学校の屋部校長先生からは、支援機関の協力を得た実践事例集について、また、船浮小学校の実践事例は事務局から説明しました。

最後に、連絡会は毎年開催すること及び実践事例集は引き続き作成して頂くことなどを申し合わせて会議を終了しました。



連絡会での意見交換の様子

野生生物保護対策検討会イリオモテヤマネコ保護増殖分科会に出席

1月30日（金）環境省主催の分科会が竹富町離島振興総合センターで開催され、当センターはオブザーバーとして出席しました。

会議では、環境省から平成20年度に実施した生息状況モニタリング、外来生物対策及びイリオモテヤマネコ生息状況等総合調査（第4次）の結果などの取り組み状況についての報告。次に、沖縄森林管理署やNPOどうぶつたちの病院などからそれぞれが取り組んでいる保護対策などが報告されました。

イリオモテヤマネコは現在、100頭前後しか生息していないと言われ、絶滅が危惧されています。最近では、好適環境の減少及び交通事故、野イヌ、病気など外的要因による減少もますます心配されているところです。西表島の住民及び様々な機関の積極的な取り組みによって保護増殖事業計画の目標である「イリオモテヤマネコが自然な状態で安定的に存続できる環境」づくりが達成できるよう微力ながらセンターも協力していきたいと考えています。



分科会の様子

西表縦走線合同巡視

2月5日(木) 環境省主催による西表縦走線合同巡視が、沖縄森林管理署、八重山警察署、竹富町などの行政機関及び西表島でツアーを実践しているガイドが参加して行われました。

当日は、浦内川船着き場に集合、登山開始地点である軍艦岩までボートで移動、軍艦岩にて環境省西表自然保護官事務所の自然保護官から注意事項と参加者22名の自己紹介が行われ、ガイドの森本孝房氏の先導で合同巡視が始まりました。

当日の午前中は良好な天候でしたが、午後から雲が増えて中間広場付近では雨に変わりました。途中途中の崩壊地、歩道及び案内板の整備状況などを確認しつつ、中間広場では放置されたテントを回収して合同巡視を無事に終了することができました。

西表縦走線はいくつもの沢を渡る必要があり、日頃は、深いところで水深10cm程度ですが、雨が降れば一気に増水することが予想され、天候次第では危険を伴うルートとも言えます。この縦走線の登山は、単独での利用は是非とも避けるべきことを痛感しました。



軍艦岩を出発



小川を渡る歩道



崩壊地の歩道



イタチキ川合流地点



急な歩道

森林総合研究所国際連携推進拠点長ほか来島

2月10日(火) 森林総合研究所、林木育種センター本所、九州育種場からの出張者に対し、当センターが取り組んでいる仲間川マングローブ林のモニタリング、海岸林再生試験、森林環境教育拠点施設である西表亜熱帯樹木展示林内の木道等を案内しました。

仲間川では、林木育種センター西表熱帯林育種技術園と共同で取り組んでいる希少種タシロマメの現況等について、南風見田の海岸では、ギンネムのマルチングによる抑制試験、在来種の植栽及びモクマオウの枯損等について状況を確認してもらいました。

短い時間でしたが、当センターのモニタリングに対する助言も多く頂き、収穫のある一日でした。



森林環境教育拠点施設の木道の説明



海岸林での説明

平成20年度1, 2月期ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

ヒナイ川の利用状況調査を1月19日(月)、2月19日(木)に、西田川の利用状況調査は2月20日(金)にそれぞれに実施しました。

ヒナイ川では、1月期はカヌーツアーが2組(ガイド含め8名)、2月期はカヌーツアーが10組(ガイド含め37名)となり、少し上向き利用状況となりました。

また、西田川では、カヌーツアーが1組(ガイド含め3名)の利用状況となりました。

さて、今年はヒナイ川、西田川周辺において、オキナワウラジロガシ、オキナワジイなどの亜熱帯広葉樹にたくさんの花芽をつけているのを見かけました。また、西田川ではセイシカの花も咲いていました。いよいよ西表島で最も過ごしやすい「うりずん」(初夏)の季節へと向かっていきます。



1月：ヒナイ川にて



2月：サンガラの滝(西田川)



2月：セイシカの花(西田川)

西表島の樹木

今回も、今が見頃の西表島の植物を紹介します。

ヒメサザンカ(ツバキ科ツバキ属)

学名：Camellia lutchuensis T. Ito et Matsum.

分布 / 琉球の固有種(沖永良部島・沖縄島・久米島・石垣島・西表島)

生育環境・形態など

谷間の溪流沿い、または林の中の半日陰の地に生えています。高さ約10mに達する常緑の小高木、幹は約10cm、樹皮は灰白色、小枝は極めて細く、短く軟らかい毛が密生しているのが特徴です。葉っぱも小さく長さ1.5~4.0cm、微小な鈍鋸歯。花期は1月下旬から2月上旬を中心とした冬期です。花は芳香があり、径3~4cm、白色で外面はわずかに紅色を帯びることがあります。



ヒメサザンカの花(2009.0205 西表島横断道)



ヒメサザンカの葉(2007.0520 西田川)

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>